

# 糸のこ体験

会場：木材工芸センター

担当：県民の森職員（木材加工用機械作業資格者）

【開催日】2026年4月11日（土）  
2026年5月9日（土）  
【時間】10:00～15:00  
【参加費】1,000～1,500円  
【定員】随時受付（最終13:00）



初心者でも気軽にウッドクラフトの楽しさを体験できます。様々なデザイン・文字の型紙をご用意。もちろんご自身で描いた絵柄でもOKです。初めての方も木材加工用機械作業資格者が丁寧にお教えしますので安心です。木材のサイズによって参加費・所要時間が変わります。（1作品の所要時間：約120分）



## 岩手県森林公園

# 県民の森だより

2026.  
**3**  
Vol.242

発行 岩手県民の森  
(公益社団法人  
岩手県緑化推進委員会)

【毎月5日発行】

### 春の自然イベント ※「さんぽ」イベントは県民の森職員（森林インストラクター）がご案内します。 お問い合わせ：学習館 ☎0195-78-2092

#### ●残雪の森さんぽ

【開催日】2026年3月14日（土）  
【時間】10:00～12:00  
【参加費】1,000円（スノーシューレンタル別途1,000円）  
【定員】10名（小学3年生以上対象、初心者対象）

3月に入ると、まだ雪景色なのですが、とたんに穏やかな日が多くなり、春が近づいてきたことがわかります。静かな残雪の森の中をゆっくり歩いて、膨らんできた木々の冬芽などを楽しめます。



#### ●春の花さんぽ

【開催日】2026年4月26日（日）  
【時間】10:00～12:00  
【参加費】1,000円  
【定員】10名（小学3年生以上対象、初心者対象）

雪融けのあと真っ先に咲く早春の花々や芽吹きなどをご案内。ゆっくり歩いて岩手山麓の春を満喫します。



#### ●春の森さんぽ

【開催日】2026年5月17日（日）  
【時間】10:00～12:00  
【参加費】1,000円  
【定員】10名（小学3年生以上対象、初心者対象）

新緑の森のなかをゆっくりと歩いて、岩手山麓に次々と咲く草木の花や、ダイナミックな木々の芽吹きを楽しめます。



#### ●春の野鳥観察会

講師：日本野鳥の会もりおか会員

【開催日】2026年5月16日（土）  
【時間】9:00～12:00  
【参加費】1,500円  
【定員】20名（初めての方・初心者歓迎）



岩手山麓の森のなかで野鳥観察をしませんか。初めての方大歓迎。双眼鏡のレンタルもあり（先着順）、使い方などもお教えしますので安心です。運が良ければ憧れの夏鳥にも会えるかも知れません。

### 森林ふれあい学習館 ギャラリー展示

お問い合わせ：学習館 ☎0195-78-2092

## 手芸作品展示会

2026年3月4日（水）～4月30日（木）

八幡平市の手芸サークル「まゆみの会」や市民有志が手作りした手芸作品約300点。農家の女性たちが農閑期に集まってコツコツとつくりためた心暖まる作品の数々をお楽しみください。毎年恒例の人気展示です。



## 八幡平市の四季 ～佐藤房子・柚澤みよ子 写真展～

2026年5月2日（土）～31日（日）

私たち二人は八年前に写真クラブで出会い、それ以来の撮影仲間です。常に二人で青森県、秋田県、岩手県で写真を撮影しています。その中でも八幡平市は自然が美しく、写真を撮る場所の宝庫です。それに魅せられて数年間の写真を撮り溜めてきた農業・風景・イベントの写真の一部を展示します。



【佐藤 房子 プロフィール】

長年医療関係の仕事しながら登山での自然観察を楽しんできました。退職後カメラを趣味として8年程。今は多くの仲間と活動しています。【受賞歴】岩手日報キャビネコンテスト（年間賞4回）（最優秀賞）・滝沢ちゃぐちゃぐ馬コ（市長賞）（協会賞）（最優秀賞）・岩手県土地改良事業（最優秀賞）（優秀賞2回）

【柚澤みよ子 プロフィール】

写真を撮り始めたきっかけは、4つの大病を患い落ち込んでいた時、友人に勧められて外の空気を吸ってみようと思いました。それから病気が気にならなくなり楽しんでいます。【受賞歴】岩手県芸術祭（部門賞）・朝日生命笑顔のフォトコンテスト（特別賞）・日本の美しい村フォトコンテスト（特別賞）



昭和の森 2025年3月31日

3月に入ると、とたんに穏やかな日が増えてきます。雪が融けてすこし地面が出てきた場所に鳥たちが集まって食事をしています。まだ雪景色ですが、春の足音が聞こえてきます。厳冬期のように寒くはないので、ゆっくりと雪のなかをさんぽしながら、じっくりと自然観察ができるのもこの季節。また、公園内には拠点の施設、森林ふれあい学習館が設置されており、森林・林業・木材利用の展示や、木の遊具がたっぷりの木育コーナーが楽しめます。皆さまのお越しをお待ちしております。

岩手県民の森 管理事務所

〒028-7302

岩手県八幡平市松尾寄木 1-515-5 森林ふれあい学習館フォレストi

TEL.0195-78-2092 FAX.0195-71-1778

開館時間：9:00～16:00 火曜休館（祝日の場合翌日振替）

年末年始休館（12/29～1/3）



岩手県民の森 検索



@forest\_iwate



@MORI\_IWATE

# ひっそりと咲く春の花

春を代表する花といえば、華やかな桜の花のイメージがあります。でも、早春の雪融けの頃から他の木々に先駆けてひっそりと咲いている花もあります。目立たないけれど、清々しい美しさがあります。これから咲く花を想像して、だんだんと冬芽が膨らんでくる様子を見られるのもこの時期の楽しみ。春を探しに、森の中をさんぽしませんか？



**バッコヤナギ**  
ヤナギ科ヤナギ属

【花芽の芽吹き】2025/3/30 【上：雄花】2024/4/19 【下：雌花】2025/4/19  
雌雄異株。早春、葉が出る前に花穂が芽吹きます。芽吹きはじめは白銀色の絹毛に覆われ、寒さから花を守っています。しばらくすると黄色っぽい雄花、薄緑色の雌花が見分けられるようになります。



**マンサク**  
マンサク科マンサク属

【花】2025/3/25 【上：冬芽】2025/3/19 【下：実】2022/11/5  
落葉低木。北国に春の訪れを告げる「まんず咲く」花として有名で、この花が咲くのを楽しみにしている方も多いです。秋にできる実はチューリップ型で可愛らしく、熟して乾燥して開くと、中の黒い種が弾けて飛んでゆきます。



**ハルニレ**  
ニレ科ニレ属

【冬芽】2024/4/1 【上：花(雄性期)】2025/4/21 【下：花(雌性期)】2024/4/20 【ハルニレ実】2024/5/10 【右：新緑】2023/5/26  
北日本を中心とした寒冷地に分布する落葉高木。春、葉っぱが芽吹く前に花が咲くことが名の由来。両性花ですが雌雄異熟(雄性先熟)という性質を持ち、自家受粉を防いでいます。同じ木のなかで花の成熟段階がずれるので、赤い雄しべの葯が目立つ花、その後雄しべが落ちて白っぽい雌しべが目立つ花と一緒に観察できます。葉が開く前にできる緑色の翼果は、豊作の年は枝いっぱいにつき、まるで花が咲いているかのような美しい姿となります。



**ヤマハンノキ**  
カバノキ科ハンノキ属

【花】2023/3/17 【上：実 / 下：冬芽】2020/2/14  
落葉高木。水辺を好みますが、痩せ地などの乾いた条件の悪い場所でもよく育ちます。まだ雪景色の頃、いち早く花を咲かせます。枝先につくマッチ棒の頭のようなものが雌花、雄花は長い穂状で垂れ下がります。



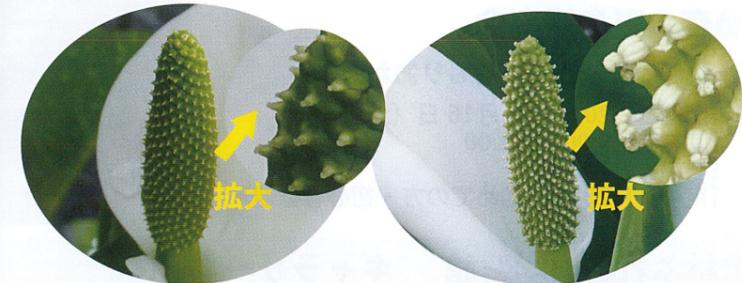
**メタセコイア**  
ヒノキ科メタセコイア属

【花芽と実】2023/3/15 【左：落ちた雄花】2023/4/4 【上：新緑】2020/6/2  
中国原産の落葉針葉樹。落葉後、花序が長く垂れ下がっている姿が目立ちます。早春に咲きますが、高木なので観察が非常に困難です。落ちた花穂(雄花)でようやく確認しました。雌花は穂先につきますが残念ながら未だ出会っていません。

## 学習館から徒歩5分、みずばしょう園へようこそ。



サトイモ科の多年草、ミズバショウ。雪融けと共に現れて、マンサクの花とともに県民の森に春を告げる風物詩です。白い花に見える部分は仏炎苞(ぶつえんほう)と呼ばれる葉が変化したもの、中央のヤングコーンのような円錐状のものが花です。この肉質の花序に、小さな花がたくさんついています。両性花ですが、雌雄異熟(雌性先熟)で自家受粉を防いでいます。仏炎苞が開いた時点では雌しべが露出、そのあと数日すると雄しべが出てきます。今年はじっくり花を観察してみませんか。



【みずばしょう園】2025/4/13 【花】2025/4/17

【花(雌性期)】2022/4/16

【花(雄性期)】2025/4/21



**アメリカハナノキ**  
ムクロジ科カエデ属

【冬芽】2020/3/26 【上：雄花】2020/5/4 【下：雌花】2024/4/17  
北米原産。日本の「ハナノキ」の近縁種で、秋に美しく紅葉するカエデの仲間です。冬芽がひときわ美しく、だんだんと膨らんでくるにつれて鮮やかな赤色になります。雌雄異株。花は小さいですが、葉っぱが出るより先に咲くので、遠くから見ると木全体の枝先がふんわりと赤く染まります。



**ニワトコ**  
ガマズミ科ニワトコ属

【冬芽】2021/3/8 【上：芽吹き】2025/4/19 【下：花】2022/5/12  
低木~中高木。春が近づくにつれて冬芽が丸く大きく膨らんで、よく目立ちます。割れた冬芽からは、ブロッコリーのような蕾と葉っぱの赤ちゃんが一斉に出てきて、まるで昆虫の羽化のようです。淡緑色の小さな花が群がるように咲きます。

## 県民の森の植物 94 アブラチャン (クスノキ科クロモジ属)

漢字で書くと「油瀝青」。アブラは「油」、チャンは「瀝青(れきせい)」(タール類)のこと。樹皮や枝葉、種に油が多いことに由来します。落葉低木。雌雄異株。春が近づくにつれて花芽が丸く膨らんで、まるでヤジロベエのように見えてとても可愛らしいです。葉っぱの芽吹きより先に透明感のある淡黄色の小さな花が咲きます。実はビー玉くらいの大きさの球形。若い実は割ると柑橘系のよい香りがします。秋に熟すと乾燥して裂けて、なかから種が出てきます。昔から種や樹皮から油を抽出し、行燈の燃料や、髪付油として使われてきました。材はしなやかでカンジキや杖として利用されています。春を告げる花のひとつ、アブラチャン。だんだんと膨らんできた冬芽が割れるとき、県民の森に春がやってきます。



【冬芽】2024/3/26

【雄花】2024/4/13

【雌花】2022/4/23

【実】2020/9/9